

第2期三重県DX推進基盤
概要構想書

令和8年6月

目次

1. 本書の位置付け	1
2. 現状と評価	2
2-1. 現状.....	2
2-1-1. 現行システムの概要と評価.....	2
2-2. 現行システムの課題.....	3
3. 次期システムの構想	5
3-1. 基本的な考え方.....	5
4. 事業概要	7
4-1. 調達区分.....	7
4-2. 各調達の概要.....	7
4-2-1. 第 2 期三重県 DX 推進基盤整備及び運用保守業務（コミュニケーション及びセキュリティ基盤）	7
4-2-2. 第 2 期三重県 DX 推進基盤整備及び運用保守業務（庁内ネットワーク環境の構成変更）	8
4-2-3. 第 2 期三重県 DX 推進基盤整備及び運用保守業務（データ活用）	8
4-2-4. 第 2 期三重県 DX 推進基盤を活用した BPR 支援業務委託.....	8
4-2-5. 第 2 期三重県 DX 推進基盤 LBO 用インターネット回線の利用.....	9
4-2-6. 第 2 期三重県 DX 推進基盤の庁外持ち出しパソコン用 SIM 回線の利用	9
5. 関連する現行システム等	10

1. 本書の位置付け

本書は、第2期三重県DX推進基盤（以下、次期システム）の具体的な要件整理や調達方法について、現時点での構想を示すものであり、確定した要件を示すものではない。

2. 現状と評価

2-1. 現状

2-1-1. 現行システムの概要と評価

現行三重県DX推進基盤（以下、「現行システム」という。）の整備においては、整備後の基盤活用を含め、以下の4つの取組を実施してきた。

現行システムの概要と現時点での評価は下記のとおりである。

2-1-1-1. 概要

取組1 コミュニケーション基盤の整備

「クラウドシフト」によるコミュニケーションの活性化を目的とした、コミュニケーション基盤を整備している。

取組2 情報セキュリティ基盤の整備

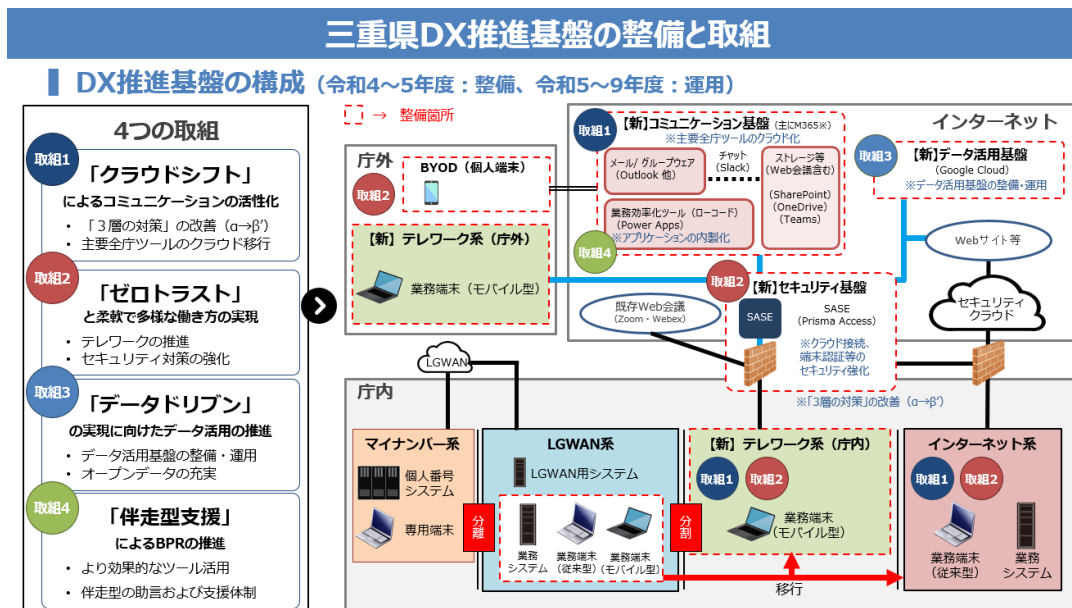
「ゼロトラスト」の考え方を導入することにより、クラウド及び端末のセキュリティを向上するための基盤を整備している。

取組3 データ活用基盤の整備

「データドリブン」な業務運営の実現に向けた、データ活用基盤を整備している。

取組4 ツール活用に係る伴走支援

より効果的な業務課題の解決を目的に、専門的な知見や経験に基づく具体的助言、技術的支援について「伴走型支援」体制を整え、デジタルツールの活用も含めたBPRを推進している。



2-1-1-2. 評価

取組1 コミュニケーション基盤の整備

目標：クラウドシフトによるコミュニケーションの活性化

グループウェアやビジネスチャット等のクラウドツールの活用により、庁内でのコミュニケーションが活性化され、効果的な情報共有が実現できている。

取組2 情報セキュリティ基盤の整備

目標：テレワーク環境及びセキュリティ対策の強化

通信経路上の脅威検知・対処によりセキュリティを確保しつつ、セキュリティを強化した端末を導入することによって外部持ち出しも可能としており、柔軟で多様な働き方を実現している。

取組3 データ活用基盤の整備

目標：データ活用基盤の整備・運用によるデータドリブンを実現

複数のデータ活用実証を行っているが、効果的なユースケースの確立や利用促進が進んでおらず、データドリブンの実現には至っていない。

取組4 ツール活用に係る伴走支援

目標：業務課題の解決に向けたデジタルツール活用に関する支援体制の構築

専門的な知見に基づく具体的な助言や技術的支援を通じて、一部の業務で効果的な課題の解決につながっている。

2-2. 現行システムの課題

取組1 コミュニケーション基盤の整備

現行システムでは、高機能な製品やクラウドサービスを導入しているが、インフレや円安の影響により利用料金が上昇している。こうした外部環境によるコスト増を踏まえ、今後はこれまで以上に費用対効果を重視した取組が必要となっている。

取組2 情報セキュリティ基盤の整備

クラウドサービスの利用拡大に伴い、インターネットに対する通信トラフィックが増大しており、特に利用が集中した際の速度低下が課題となっている。

さらに、サイバー攻撃の手法は年々高度化しており、特にネットワーク境界型防御に依存しているインターネット接続系の一部のシステムや端末では、セキュリティ上のリスクが高まっている。

取組3 データ活用基盤の整備

データ活用基盤について、分析機能の整備は進んでいるが、EBPM（証拠に基づく政策立案）への理解不足や、職員の発想・活用スキルの面で課題が残っており、人材育成等の素地づくりがより重要となっている。

取組4 ツール活用に係る伴走支援

伴走支援による効果的な課題解決が一部の業務にとどまっており、今後は、より多くの業務へ展開することが課題となっている。

3. 次期システムの構想

3-1. 基本的な考え方

現行システムの取組は維持しつつ、現在抱えている課題を解決するための方針を取りまとめ、次期システムの構想とした。

取組1：コミュニケーション基盤の整備

目標：さらなるコミュニケーションの活性化と費用対効果の最大化

全職員が通常業務で利用しており、業務遂行に不可欠なツールとなっているとともに、取組の成果が出ているため、現行システムの機能を維持する。

ただし、重複ツールの統合など、費用対効果を最大化するとともに、ツール活用による業務の品質向上に努める。

取組2：情報セキュリティ基盤の整備

目標：セキュリティ対策のさらなる強化とレスポンスの改善

端末持ち出しやゼロトラスト・セキュリティを採用したことによる成果が出ているため、現行システムの機能を維持する。

加えて、高まるサイバーセキュリティのリスクに対応するため、必要なセキュリティ保護の仕組みを導入する。

また、増大するトラフィックに対応するため、各庁舎等における LB0 環境を整備し、庁内システムのレスポンス改善に取り組む。

取組3：データ活用基盤の整備

目標：データ活用基盤の継続およびデータ活用ができる人材の育成

現行システムにおける既存取組（実証取組）について、必要な機能に絞り継続して取り組む。あわせて、データ活用に係る素地づくりが不十分であることから、人材育成等のデータ活用の促進に向けた課題にも取り組む。

取組4：ツール活用に係る伴走支援

目標：業務課題の解決に向けたデジタルツール活用に関する支援の拡大

一部業務において伴走支援の成果が出ているため、継続して取り組むことで、より多くの業務における効果的な課題の解決に取り組む。

第2期三重県DX推進基盤の整備

DX推進基盤の構成 (令和8~9年度：整備、令和10~14年度：運用)

4つの取組

取組1 コミュニケーション基盤の整備 継続

- 主要ツールのクラウド活用の継続
- ツール統廃合によるコスト最適化

取組2 情報セキュリティ基盤の整備 強化

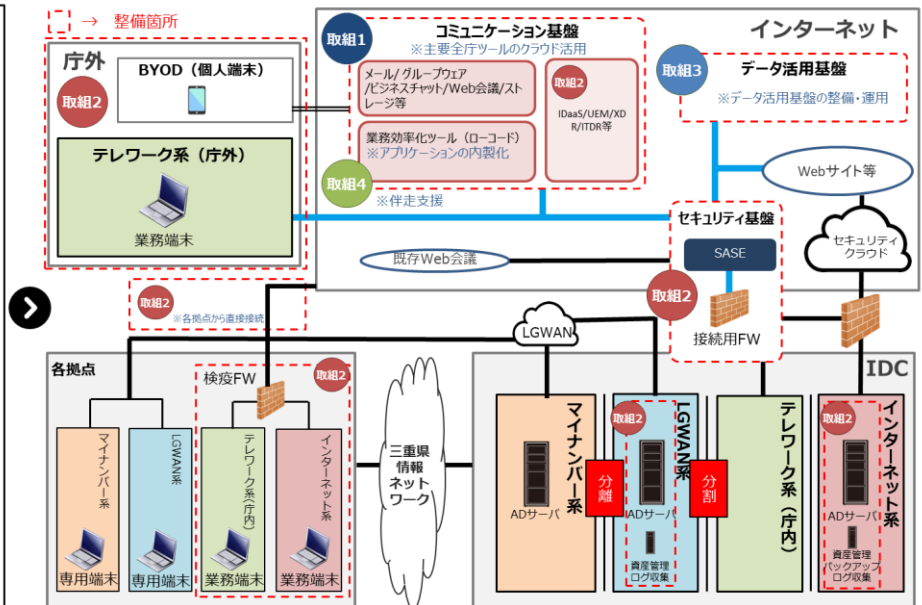
- セキュリティリスクへの対応強化
- 庁内システムのレスポンス改善

取組3 データ活用基盤の整備 素地作り

- データ活用基盤による実証の継続
- 職員によるデータ活用の裾野拡大

取組4 ツール活用に係る伴走支援 継続

- デジタルツール活用支援の継続



4. 事業概要

4-1. 調達区分

次期システムの整備に向け、「3-1 基本的な考え方」に記載した取組をそれぞれ進めるにあたり、その取組の目的や特性を踏まえ、下表の調達区分により調達することを想定する。

No	調達区分	取組1	取組2	取組3	取組4
調達1	第2期三重県DX推進基盤整備及び運用保守業務 (コミュニケーション及びセキュリティ基盤)	○	○		
調達2	第2期三重県DX推進基盤整備及び運用保守業務 (庁内ネットワーク環境の構成変更)		○		
調達3	第2期三重県DX推進基盤整備及び運用保守業務 (データ活用)			○	
調達4	第2期三重県DX推進基盤を活用したBPR支援業務委託				○
調達5	第2期三重県DX推進基盤LB0用インターネット回線の利用		○		
調達6	第2期三重県DX推進基盤の庁外持ち出しパソコン用 SIM回線の利用		○		

4-2. 各調達の概要

各調達区分の概要は、以下のとおりとする。

4-2-1. 第2期三重県DX推進基盤整備及び運用保守業務 (コミュニケーション及びセキュリティ基盤)

項目	概要説明
調達範囲	<p>以下の環境整備、現行システムからの移行、運用・保守を行う。</p> <p>(1) コミュニケーション基盤 ビジネスチャット、グループウェア、庁内メール、インターネットメール、ファイルストレージ、Web会議、業務効率化ツールをクラウドサービスとして提供する。 個人所有端末(スマートフォン、タブレット含む)からも、コミュニケーション基盤のサービスに限り、使用可能とする。</p> <p>(2) セキュリティ基盤 ゼロトラストの考え方に基づく、セキュリティ強化(エンドポイント、ID、クラウド等)に加え、業務端末の持ち出しを可能とするための環境(SASE等)を整備する。 また、従来の統合認証基盤(Active Directory、資産管理ソフト、ウイルス対策システム、導入ソフトウェアのアップデート環境)を本基盤に統合し、認証基盤や、庁内ネットワークのセキュリティ強化を図る。</p>
期間	<p>整備(設計・構築): 令和8年12月～令和9年9月 移行(並行運用): 令和9年10月～令和10年3月 運用: 令和10年4月～令和15年3月</p>

4-2-2. 第2期三重県DX推進基盤整備及び運用保守業務

(庁内ネットワーク環境の構成変更)

項目	概要説明
調達範囲	<p>以下の環境整備、運用・保守を行う。</p> <p>(1)ネットワーク経路の最適化 次期システム及びインターネット向けの通信を各拠点（各総合庁舎）からローカルブレイクアウト（LBO）するよう、三重県情報ネットワークの設定変更を行う。 また、テレワーク系（庁内）からインターネット接続系への通信を、各拠点内で完結させるよう設定し、拠点間のトラフィックを最適化する。</p> <p>(2)SASE との接続 LBO 通信のセキュリティ対策のため、各拠点を SASE へ直接接続する。</p> <p>(3)検疫 FW 等の導入 (1)、(2)を実現するにあたって必要となる機器を導入する。</p> <p>(4)インターネット接続系端末のセキュリティ対策 インターネット接続系端末についても、庁外持ち出し端末で実施しているセキュリティ対策の一部を適用する。</p>
期間	<p>整備（設計・構築）：令和9年2月～令和9年6月 並行運用：令和9年10月～令和10年3月 運用：令和10年4月～令和15年3月</p>

4-2-3. 第2期三重県DX推進基盤整備及び運用保守業務（データ活用）

項目	概要説明
調達範囲	<p>既存取組（実証取組）の継続が可能なデータ活用基盤または同等の仕組みを構築し、運用に必要なサポートを実施する。 ただし、現行システムから次期システムへのデータや環境の移行及び運用保守等についても、調達範囲に含めるものとする。</p>
期間	<p>整備（設計・構築）：令和9年3月～令和9年12月 移行：令和10年1月～令和10年3月 運用：令和10年4月～令和15年3月</p>

4-2-4. 第2期三重県DX推進基盤を活用したBPR支援業務委託

項目	概要説明
調達範囲	<p>各所属職員が、各所属で管理する単独の大規模システムの業務フローでは補えない隙間業務の効率化や、既存システムの有効活用などによる業務効率化・生産性向上を目的に、ローコードツールなどデジタルツールを用いて、所属内でBPRができるように支援する。</p>
期間	<p>設計・構築状況等の把握：令和9年2月～令和10年3月 支援：令和10年4月～令和15年3月</p>

4-2-5. 第 2 期三重県 DX 推進基盤 LB0 用インターネット回線の利用

項目	概要説明
調達範囲	<p>次期システム及びインターネット向けの通信を各拠点（各総合庁舎）からローカルブレイクアウト（LB0）させるための通信回線を導入する。</p> <p>本庁 2Gbps（ベストエフォート） IDC 6Gbps（ベストエフォート）</p> <p>桑名庁舎、四日市庁舎、鈴鹿庁舎、津庁舎、松阪庁舎、伊賀庁舎、伊勢庁舎、志摩庁舎、尾鷲庁舎、熊野庁舎の 10 拠点については、それぞれ 1Gbps（ベストエフォート）とする。</p>
期間	<p>回線敷設： 令和 9 年 4 月～9 月 利用： 令和 9 年 10 月～令和 15 年 3 月</p>

4-2-6. 第 2 期三重県 DX 推進基盤の庁外持ち出しパソコン用 SIM 回線の利用

項目	概要説明
調達範囲	<p>庁外持ち出しパソコンで利用する通信 SIM を導入する。</p>
期間	<p>回線準備： 令和 10 年 2 月～3 月 利用： 令和 10 年 4 月～令和 15 年 3 月</p>

5. 関連する現行システム等

第2期DX推進基盤の整備と関連する庁内システム等は下表のとおりである。

関連する現行システム等

システム名	概要	使用者
三重県情報ネットワーク	<p>庁舎や単独地域機関、市町、データセンターの各拠点を結ぶ基幹ネットワークであり、庁内ネットワーク（行政WAN）や、国・全国自治体を結ぶ総合行政ネットワーク（LGWAN）、三重県自治体情報セキュリティクラウドへ接続するための情報通信基盤である。</p> <p>令和7年度から令和8年度にかけて再構築・移行を行い、令和9年4月から本運用を開始する予定である。次期システムの構築にあたっては、三重県情報ネットワークの運用開始後に一部機能の構成変更を行う。</p>	<p>県職員 市町職員等</p>
三重県統合認証管理基盤	<p>オンプレミス・クラウドサービスを使用する際のユーザ認証及びアクセス認証、業務端末の運用管理（資産管理・セキュリティパッチ配付）等を行う基盤システムである。</p> <p>令和3年度から令和4年度にかけて再構築・移行を行い、令和4年7月から運用を開始している。当基盤は次期システムの機能の一つとして統合する。</p>	<p>県職員</p>
三重県自治体情報セキュリティクラウド	<p>「三層の対策」の一環として、本県及び県内市町等のインターネット接続を集約し、高度なセキュリティ監視を行うシステムである。</p> <p>令和8年度に再構築を行い、令和9年度から新システムの運用を開始する予定である。</p>	<p>県職員 市町職員</p>
共通機能基盤	<p>各情報システムが、機能の一部を共通で利用できるようにした基本的な仕組みである。</p> <p>統合サーバー、リモート保守環境、職員アカウント集中管理システムの3つの基盤で構成される。</p> <p>統合サーバーは、オンプレミス（VMWare 仮想基盤）を主体に、一部、オラクル・クラウド（IaaS）で運用している。</p> <p>リモート保守環境及び職員アカウント集中管理システムはオンプレミスで運用している。</p> <p>統合サーバー及びリモート保守環境については令和6年度から令和7年度にかけて再構築を行い、令和13年度まで運用する予定である。</p> <p>次期システムにおいてオンプレミスのサーバーを構築する必要がある場合は、当基盤上で構築することを想定する。</p>	<p>県職員</p>